

●年末餅つきと注連縄作り 22 日(日)10:00 開始 木津川流域センター(木津川市山城町広河原)

開橋南 50m 恒例の年末餅つきの段取りが順調に進んできました。一番の苦労は臼の運び込みです。重たくて大きくて大変です。そしてもち米を蒸す作業になります。プロパンの使用が福知山市での花火事故以後取り扱いが難しくなって、随分と注意が必要になりました。近隣のプロパン業者では貸し出しがされなくなりました。里山の会の名物の綿菓子も遠慮することになったのですが、餅つきでは J A に無理を言って調達が可能になりました。これで一安心です。色々な面白いお餅を作って堪能したいと思っています。

午後からは新年を迎えるために必要な「しめ縄」を作ります。里山の会らしいひと工夫を重ねたしめ縄を作ろうと工夫を重ねています。いつもの皆さんのご参加をお待ちしています。15 時ごろには終了予定です。

●冬の昆虫観察会 オオムラサキの観察 21 日(土)10:00~ 午後は木津川堤防に足を運びたいと予定しています

一般に冬は冬ごもりをするので小型の昆虫探しは難しいといわれてきました。里山の会では桜谷先生のご指導を得て、夏に確認できなかったもののうち冬ごもりに入っている生き物を探して確認することになりました。その典型的なものがオオムラサキです。

エサはクヌギやコナラなどの樹液なのですが、冬には寒さ対策としてエノキの落ち葉に潜んで冬を越しています。そのエノキの落ち葉をめくってオオムラサキの幼虫を見つけることにしています。約 2000 枚を点検すると 1 匹が発見されるという気の遠くなるような単純作業を繰り返します。大変な苦労をした後に出逢ったときの感激は何ともいえない達成感や満足感に満たされます。1センチ程の生き物の発見なのですが、感激はひとしおです、小さな小さな生き物との出会いで苦労が満たされるのです。同じエノキの葉っぱの裏にゴマダラチョウも隠れています。背中突起物の三本がゴマダラチョウで、四本がオオムラサキなのです。なかなか見つけることが出来ませんが皆さんも一度は経験されると、自然の寒い冬をこんな小さな生き物が枯葉について越冬する姿に感激されると思います。是非おこしく下さい。

●24 日の 9 時から 刈草収集作業を実施 集合地は木津川市加茂町 小谷樋門前 恭仁大橋の南側集合の後場所を移動します

15000 m² 39 カ所の生育調査地の除草作業が完了し、刈草の集積を行います。かなり広大な面積になりますので、収集に時間がかかりますが、出来上がると大変美しい斜面に姿が変わります。仕事の出来映えでやりがいを感じられる作業です。集めたものは持ち出しますので、とりわけ美しくなります。そして来春には堤防が緑の絨毯に生まれ変わるのです。しばらく茶色の寂しい姿ですが、少し経過すると早くもロゼット状の葉っぱを広げた草たちがあちこちから芽を出して頑張ってきます。春を待っている姿に出逢えます、自然の元気な生命力に接することができます。正月 6 日の七草摘みの頃には出会えるはずですが、木津川出張所と上野出張所との境界に近い木津川市小谷地区から作業を始めます、お手伝いをお願いいたします。

●25 日 14 時 里山農園で七草摘みの会の事前準備作業 竹の切り出しとお椀作りや焼き印入れの実施

新年最初の取組が七草摘みと七草粥の会で、今回から準備を出来るだけ前倒しで始めることになりました。最大の作業が若竹の切り出しと輪切りにしてお椀を作る作業が初作業で、時間と手間がかなりかかります。これまでは前日作業だったので、十分に手入れされたものではなく、間に合わせ的なあらい作品になっていました。丁寧に時間をかけて親切な作品でおかゆを食していただければ真心が伝わるのではないのでしょうか。心を込めてさらに使ってみたく作品に仕上げられればと

思っています。そのほか床の清掃や広場の整備にも時間を使いたいと思っています。

●27日（金）9:00 から 炭焼き小屋の草刈り作業

3年間ほど前に炭焼き体験を行って以来活用してきませんでした。その間にクズが生い茂り雑草が大きく繁茂して柱にとりつき巻き上がっています。年が変わると炭焼き体験を計画していますので、炭焼き釜の周囲をきれいに清掃しておかなければなりません。大人4～5人が作業しても完成できない相当な作業量と見込まれます。3年前まで炭焼きのご指導をお願いしてきた南五晴さんが体調を崩されて以後使用されていませんので、大仕事になります。炭窯屋根や柱は手作業で鎌に頼ることになります。大勢の人手が必要です。多くの皆さんのご協力をお願いいたします。炭窯を再生して素晴らしい炭を焼いてみたいと思います。

●イタセンパラの復活を目指す取組 山城大橋付近の通路の確保始まる

正月から始まるイタセンパラの復活を目指す取り組みで、最後の生育池に誰もが簡単に近づくには通路の確保新設がなくてはなりません、そのために旧道の復旧を図ります。国土交通省の賛同を得て作業を始めていただきました。長年使われていなかった通路なので、思うように進展しない苦難の作業です。田中組さんのベテランが重機を使っての切り開きを続けていただきました。これが完成すると容易に現地にまで行けます。2月には計画全体を把握するために周囲の除草を完成させたいと思っています。

●里山農園の各部署のネーミングの新提案

里山農園には約20枚の田んぼがあります。その田圃の周りに違った樹木が生育しています。また特徴ある生き物や植物が生育しております。これまで20枚の田んぼを1号地2号地と番号で呼び名をつけておりました。これでは全く面白くもないので、番号以外に特徴を表す呼び名を考案しました。例えばササユリの堤、ユズの丘 カヤネズミの家と広場 みんなで作る里山の菜園 白土山と洞穴 今も残る4億年 花の楽園 コ克蘭の丘 タマムシ飛翔の丘 菜の花畑 どんぐりの森 コナラの林 クヌギの若森 柿の畔 アサギマダラの広場 里山の茶室 里山の再生装置 アカガエルの池 森の美声といったネーミングです。多くの皆さんの知恵をお寄せいただければより楽しい農園作りになっていくのではないのでしょうか。皆さんの夢をお願いします

●里山農園の取組(案)

1月七草摘みと七草がゆ 2月炭焼き体験 3月イノシシ対策 4月春の野草を味わう会 5月夏野菜の植付け 5月新茶でお茶会 タマネギの収穫祭 6月蛍の夕べと里山音楽会 7月オオムラサキ飛翔確認会 7月夜の生き物調べ 8月トマト キュウリの収穫 9月お月見 10月京田辺の最高峰に登ろう 11月周辺山の整備 12月冬の生き物調べ オオムラサキ越冬調査会

●イタセンパラのスタッフミーティング 1月19日(日)13時半 中部住民センター（京田辺市草内） 去る12月3日に太田敏之さんがトヨタ環境活動交付金の受賞を受けての取組の最初のプログラムを開催いたします。ご出席をお願いしているのは次の皆さんです

1竹門康弘 京都大学准教授 2石田裕子 摂南大学教授 3小川力也 本会顧問 4河合典彦 大阪市立中学校教員 5綾史郎 大阪工業大学元教授 6北野大輔 滋賀県立大学院生 7小林慧人 京都大学院生 8深田三郎 里山の会理事長 9大村幸正 里山の会副理事長 10太田敏之 里山の会理事 11福井波恵 河川レンジャアドバイザー 12大釜智光 里山の会理事 河川レンジャー 13田中実知世 河川レンジャアドバイザー 14中川宗孝 城陽生き物代表 15山村武正 里山の会常務理事

立命館宇治高校自然科学部がイタセンパラの復活を目指して地域活動のお手伝いの意向をお持ちのようです。大釜智光理事の案内で判明しました。うれしい情報です、1月19日以降のご参加になる見通しです。